**■講演タイトル**

**「2040 年代の看護を見据えて ～ナイチンゲールと AI の共創～」**

---

**■講演概要**

本講演では、ナイチンゲールの『看護覚え書』第 3 章「petty management」の思想に立ち返り、
看護の原点にある「小さなことへの丁寧な気づきと対応」が、これからの時代にどう活かされるかを考えます。
少子化・人手不足・AI の進化が進む中で、看護師の“ラストワンメーター”の力が果たす役割に注目し、技術と人間性が共存する未来の看護を展望します。

---

**■講演構成（各章ごとの要点）**

**1. はじめに**

出生数の急減により、2040 年代には新社会人が 70～90 万人規模になると予測される。
医療・福祉の人材確保は極めて困難となり、「人が足りないこと」が前提の時代へ。
この現実を直視し、「良い看護」を持続させる視点が問われている。

**2. ナイチンゲールに学ぶ「petty management」**

“看護師がいない時にも良い看護が続く”ための仕組みと視点を説いた『看護覚え書』の第 3 章。
「小さなことに気づき、適切に対応する」ことこそ看護の本質である。
これは単なる記録や手順ではなく、継続的なケアの土台をつくる行為。

**3. 看護の真髄 ― 気づき・具体・関係性**

日々の観察・声かけ・反応の読み取りなど、非言語的で個別性の高い対応こそ看護の力。
忙しさに追われる中で、こうした感性や関係性が見えづらくなっている。
今こそ、看護の本質を再認識する必要がある。

**4. AI と看護師の役割の違い**

AI はデータ分析や予測において人間を超える可能性がある。
しかし、何を観察し、どんな情報を拾い上げるかは人間にしかできない。
“ラストワンメーター”に立ち、感情や関係性を読み取るのは看護師だけである。

**5. 今、取り組むべきこと**

人手不足や多忙な現場を前提としつつ、看護の気づきを言語化・可視化する工夫が必要。
テクノロジーを単なる効率化ではなく、看護の本質を支える手段として取り入れる。
原点を見つめ直し、そこから未来の看護を再構築するタイミングに来ている。

**6. むすび**

原点回帰とは過去に戻ることではなく、未来を形づくるための足場である。
“ラストワンメーター”を担うことに誇りと喜びを持ち、看護の魅力を次世代につないでいく。
ナイチンゲールの思想とともに、次の時代の看護を描いていきたい。